

運動が苦手な児童も 楽しめる体育の学び

岡山県総社市立総社中央小学校

全校児童数	419名(男子235名 女子184名)		
全クラス数	16	教職員数	38名(内体育専科0名)
地域スポーツ活動への参加(スポーツ少年団等)	有		
地域のスポーツ指導者の活用(年間延べ人数)	0人		

小学校

実践内容

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

体を動かすことが苦手な児童は、なかなか体育科学習へ主体的に参加しにくい状況があります。また、学年が上がるにつれて、休み時間に外で遊ぶ楽しさを実感できない児童もおり、特に、教室で過ごすことの多い高学年女子の体力低下が懸念されています。

そこで、児童が意欲的に取り組める体育科学習のあり方を検討し、休み時間の取組と関連付けながら、学校全体として計画的な体力向上に取り組むことにしました。

2 取組の目的

- ①運動することに消極的な児童に対して、体育科学習への主体的な参加を促す授業の工夫をする。
- ②児童に達成感や満足感をもたせることで、休み時間や家庭での継続的な活動につなげる。
- ③全教職員で課題を把握し、体力向上のための指導方針を共通理解したうえで、取組を行えるようにする。

取組の内容（右ページも参照）

1 誰でも運動の楽しさを感じる工夫

(1) スモールステップを大切にしたい授業づくり

① 運動が苦手な女子でも楽しめる工夫

全員が運動を楽しみながら必要な技能も身に付けられることを目指して、体育学習の単元計画を工夫しています。5年生「ハンドボール」の学習では、運動が苦手な女子でも楽しめるように、シュートチャンスが多く生まれるよう、場やルールの工夫を行います。さらに運動を楽しむために必要な技能（投げる、捕る）の習得のため、授業の始めに毎回ボールパスを行ったり、休み時間には岡山県のチャレンジランキングにあるドッジパスラリーを行う等しています。

② 学校全体で体力向上をねらうサーキット

発達段階に応じて、全学年で体育科学習前にサーキットトレーニング（ランニング、うんてい、登り棒、馬跳び、鉄棒）を行います。運動の種類や機会を増やし、少しずつできる事が多くなることから興味をもち、休み時間にもうんていや鉄棒に取り組む児童が増えることを期待しています。

(2) 体育的行事と関連付けた休み時間や放課後の練習

① 始業前・休み時間における体育的活動

年間を通して体育にかかわる行事を休み時間に実施しています。クラスや個人で目標をたて、教職員を含め、

全校児童が運動場で練習をしています。苦手な子を得意な子が教えたり、始業前の縦割り遊びの時間には高学年が下級生にコツを教えたりする姿が見られます。

② 水泳・陸上運動の放課後練習

水泳では、6年生は全員参加（他の学年は希望制）とし、習熟度別に練習しています（6月～8月）。陸上運動では、6年生は全員参加（5年生は希望制）とし、種目別に練習しています（9月～10月）。

2 学校と家庭との連携

毎年新体力テストの結果を「健康カード」に記載し、保護者に知らせています。また、全国平均との比較を考察し、結果を学校便りで報告しています。

また、学校便り等で、体育的行事の参観をはじめ、オープンスクールでの親子ドッジボール等への参加を呼びかけ、家庭と連携した取組を行っています。

●工夫したこと

- ①体育科学習においては、全体の課題を提示するだけでなく、個人の課題も設定するよう心がけています。また、友達同士で学び合う時間を設けることで、全体では恥ずかしくて聞きにくいことも友達同士で聞けるような雰囲気づくりを行っています。
- ②体育的行事では、体育部から取組状況等を体育便りで知らせ、教職員の協力体制をつくるようにしています。また、水泳・陸上運動の指導ポイントを図や文書で示し、統一した指導ができるようにしています。

取組の成果（右上の表を参照）

- ①体育科学習での指導や休み時間・放課後練習の積み重ねを通して、運動に意欲的に取り組む女子児童が増えました。
- ②平成21年度と平成24年度の新体力テストの結果を比べると、男女ともに体力合計点が向上しました。

今後の課題

- ①より授業の質を高めるための手立てとして、地域のスポーツ指導者の活用も検討し、地域と連携した取組をさらに進めていきたいと考えています。
- ②今後教職員の異動があっても、体力向上への変わらぬ取組が行えるよう、指導資料を作成し、教職員の共通理解を図る必要があると考えます。

